

あたりまえにあるつながり 未来にも続くまちづくり

一般社団法人山下地区安全・安心まちづくり協議会（緑区）



一般社団法人山下地区安全・安心まちづくり協議会

※写真で左から順に記載 ※令和4年12月時点

櫻井さん（理事）、中村さん（理事）、濱野さん（理事）、
安部さん（理事）、篠崎さん（理事）、菅沼さん（代表理事）、
田中さん（理事）

山下地区は緑区の北側の、東西を鶴見川と恩田川に挟まれ、中央が丘陵地となっている地域です。

この地区では「一般社団法人山下地区安全・安心まちづくり協議会」が平成26年に地域プラン「山下地区安全・安心まちづくりプラン」の認定まちづくり、令和2年度に改訂版の認定を受けて、まちの課題解決に向けた活動を続けています。

その活動の一つであるコミュニティバス「ささえあいバス」は、コロナ禍で難しい運営を強いられるも、高齢者や親子の買い物や通院移動等のための足として地域を支えています。

この取組をはじめ山下地区では、13町内会を中心にまちづくり活動を担う人が連携してまちを盛り上げています。

地域住民の生活に寄り添う

「ささえあいバス」

地域まちづくりプランで定めた活動計画の「住民同士で助け合い、移動できる仕組み」をもとに、起伏のある地形で最寄りのJR中山駅へ行き来しづらい課題改善のため、地域の人達で運行する山下地区コミュニティバスの実証運行を平成28年に横浜市とともに開始しました。運行する中で種々の課題が浮かび、取組は思うようにはいかず、実証期間が残り1年となったときに、住民の生活に寄り添った運行方法として「グループ便」や「買い物便」を取り入れました。特に後者は、日々の買い物をより快適にできると高齢者に大変好評を得ました。

実証運行の成果をもとに、地域の自主運行の体制を整え、平成31年から本格運行しています。

現在も運営は難しい状況ですが、強いボランティア精神をもつ多くの住民によって支えられ、運転手以外にも添乗員付きで運行しています。これは、まちづくりニュースなどで募集をよびかけたことにより、少しずつ「地域の支え合い」の気持ちをもつ地域住民が集まったことで運行が続けられています。

「むこう三軒両隣」を超えた助け合いの行動が地域の大きな力になっています。

コロナ禍により乗客が減少した際は、実際の乗車率に基づき、時間帯によって減便対応をして乗り越えました。



平成31年の本格運行に向け、厳しい資金面の補填に自治会員より寄付を募り、「何かのカタチで貢献したい」という気持ちから予定額の約2倍の資金が集まりました。

バス利用を希望される方には年会費1200円を払うことで登録され、利用はしなくても賛助会員として継続運行を願う方も多数登録され、地域全体でバスの運行を支えています。

バス運行に限らず、地域では盛んにボランティア活動が行われています。例えば、地区内の生活支援の幅を広げるために、「山下地区生活支援事業推進委員会」により、令和2年に「山下ボランティアセンター」が発足。この組織では、生活の「チョットした困り事」を手助けをするボランティア活動を行っています。例えば、「草刈り」や「電球交換」など、ご高齢の方には億劫な日常の活動を地域で手を差し伸べて支え合う仕組みとなっています。ボランティアの参加者は、住民に親身になって寄り添って、楽しく活動しているようです。

地域が連携して伝統を守る

地域住民の支え合いの精神は、地区内で長く続く行事にも表れています。今も自治会・連合会が一体となって、町内対抗で行われる「体育祭」や「ティーボール大会」は、お年寄りから若い世代まで参加するイベントです。新しく地区内に居住してきた方にも受け入れられているイベントで、まちを常に活気づけています。また、各町内会で行う夏祭りや秋祭りは、住民がそれぞれに参加できるように日程調整するなど、一体となって地域を盛り上げています。

これらの活動は、お互いに楽しくつながりをつくりながら、結果的に高齢者の孤立化を防ぐための見守り活動にも通じてい

ます。

各々の住民が楽しく活動が続けられることで、結果的に地域貢献にもつながっている、良い循環が自然とつくられています。



▲ 子どもたちの農業体験



▲ 山下地域交流センター

つながりを大切にしながら、 これからも住みやすいまちへ

地域の“宝“である「山下地域交流センター」で生まれた住民同士のつながり、連合・町内会・社会福祉協議会の連携など、これからもお互いとのつながりを大切に持ちながら、安心・安全なまちをつかっていきたいと篠崎さんは話します。また、地区内の豊かな自然を守りながら、そこに集まる子どもからお年寄りの方まで、みんなで一緒に住みやすいまちを作り上げていきたいと田中さんは熱く語ってくれました。

どのように自然を残していくのか、災害時の要援護者のサポートなど具体的な課題やその解決法を話す姿に、これまで「あたりまえのように」つながりながら積みかさねてきた、まちづくりの思いが表れていました。

地域まちづくりプラン

地域のまちづくりの目標・方針、課題解決に向けた取組などを、地域まちづくり組織が地域住民等の理解や支持を得ながらとりまとめた計画を、市長が認定したものです。